

合志中央支所起工式

R 6・7・3

合志市役所南側の建設予定地で、合志中央支所新築のための起工式を行いました。完成予定は令和7年4月です。

合志中央支所は、50年以上組合員の拠り所として親しまれてきました。新設後は更に組合員に寄り添い、利用者の利便性向上を目指し、今以上のサービスが出来るように努めます。



工事の安全を願い「刈初めの儀」を行う東組合長

自己改革タスクフォース実績確認会議

R 6・6・27



営農経済事業の成長と効率化の実現を目指す「自己改革タスクフォース」実績確認会議を開きました。1年目の効果額目標1億250万円に対し、達成率は75%の7650万円。最終年度（令和7年度）目標に向けて更なる積み上げを目指します。

令和4年度に経済事業における課題を洗い出し、令和5年度から19項目のソリューション(課題解決策)に対して実践しています。その取り組み内容、実績を報告しました。19項目の内、有機支援センターの供給量拡大、農機車輛センターの収支改善、物流コストの抑制など、10項目は目標を100%達成しています。物流コストの抑制として取り組んだ自己取り肥料の拡大、戸配達の内製化は大きな効果が現れています。

CBS事業の収支改善では、乳用牛育成預託料の見直しや、素牛販売における下位ランク比率の改善による収益の向上。また、「国産粗飼料」、「自給飼料」の占める割合を増やすことで飼料コスト削減もできました。

中央会、経済連、農林中央金庫などの県域支援チームによる支援、協力、そして、組合員の理解を得ながら、この取り組みを必ず達成させていきます。

企業との田植え体験交流会

R 6・6・29

菊陽町にある半導体製造企業であるJASMより「地域や、地下水涵養のことなど、社員と共に理解を深めたい」との要望を受け、JASMスタッフ、JA、行政が協力して田植え体験交流会を開きました。

JASMの堀田祐一社長、JA菊池東哲哉組合長、JASM社員やその家族40人が参加しました。菊陽中央支所職員、青壮年部員らが田植え準備や指導を行い、菊陽町産業振興部商工振興課も協力。約10aの田んぼで、ヒノヒカリの苗を植えました。

堀田社長は「田植え交流が実施できてうれしく思う。共に汗を流し、楽しい体験となった。秋の収穫が楽しみだ」と笑顔を見せました。

東組合長は「共存共栄の思いで、これからも交流を深め、地域の農畜産物を食べてもらい、農業のことも知ってもらえたらうれしい」と話しました。

秋には稲刈りを予定しています。スタッフは「田植えが初めての参加者も多く、最後まで植えられるか心配したが、楽しく有意義な交流会となった。収穫時には、更に多くの参加を呼び掛け、楽しい企画も準備したい」と話しています。



田植えを共にする東組合長と堀田社長

● JASM社内での農産物販売も定期的に行っています。



加工品も販売! 好評です!



参加者のみなさん